教科実践レポート（国語科）

２年生
　価値を語る
　・「君は『最後の晩餐』を知っているか」
　・「魅力を効果的に伝えよう」

≪研究実践のポイント≫
★深い学びの実現に向けた課題設定の工夫
★教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て
★振り返りの活用と充実

１．課題設定の工夫

絵の価値を語るためには、主観的な見方だけではなく、絵の背景を知ることも必要である。そのため、社会科(歴史)との連携を図り、教科横断的な取り組みを入れることで歴史的背景を調べて根拠とするなど、深い学びの実現に向けた手立てを設定した。

また、絵にどのような価値があり、書き手がどのような考えを持っているのかを工夫して表現することを本単元のゴールとして設定した。自分の考えを伝える活動に終始せず、相手意識を持って書くためにも「読み手に効果的に伝えるには？」という疑問から表現の工夫が必要であるという視点を持たせるような問いを設定した。

単元ゴール
〇絵の持つ価値を読み手に効果的に伝えるためには？

２．課題解決の手立て

単元を通して、絵の価値を伝えるための根拠が自分の考えと関連づけられているかを工夫しながら書く力を付けたい。そのために、仲間との交流や既習事項の確認を行い、生徒が主体的に気付ける場面を設定し、絵の価値を読み手に効果的に伝える文章を書くように指導する。

３．学習過程

ア　題材の設定，情報収集，内容の検討

まず、「富嶽三十六景　駿州江尻」(教科書ｐ185)を参考に、社会科の協力を仰ぎ、歴史を代表する絵についての情報を集めた。その中で、自分で絵を選び、時代の特徴や背景について調べた。その後、絵の価値を伝える文を書くためにどのような文章にすればよいかの視点をもって、「君は『最後の晩餐』を知っているか」を読んだ。自分が選んだ絵の魅力を付箋に書き、次の課題である構成の検討につなげることとした。

振り返り
ａ．筆者が何を伝えたかったのか、何を表現したかったのかを書くことによって、絵の価値を伝えることができると思う。
ｂ．自分の思ったことは書けたけど、読み手は私の文を読んでも絵を見たくならないと思った。読み手が見たいと思えるように書きたい。

イ　構成の検討

「君は『最後の晩餐』を知っているか」との比較から絵の価値を効果的に伝えるために、自分の文章をどう構成すればより説得力のあるものになるのかを考えた。その際、付箋に書いていた絵の魅力を入れ替え、構成を考えた。

ウ　考えの形成、記述

これまでの授業で集めてきた情報と考えた内容をもとに、自分の文章が絵の価値を伝えられる文章になっているかを共有した。表現の工夫と効果について検討しながら、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考え描写したりするなど、絵の魅力に対して自分の考えが伝わる文章になるように記述した。

さらに、根拠と伝えたいものにつながりがあるか、説得力はあるかを確認し、再度根拠となる情報を集めたり、構成を見直したりした。

振り返り
ｃ．前回よりも「東海道 53 次～朝之景」という絵について、参勤交代の様子であることや和紙や絵の具が日本でしか使われていないことが分かった。根拠になるところや描かれている内容を知って、最初に「きれい」と思った根拠が分かってきた。
ｄ．自分が思ったことを情報(根拠)とどのように結びつけるかで悩んでいるので、いろんな人の作品を見て参考にしたい。

エ．推敲　オ　共有

自分の書いた文章を班員と読み合い、絵の価値を伝える文章になっているか助言を行った。相手

が書いた文章のよいところや改善点を書いた付箋を交換し合った。その後、自分の作品を推敲する場面では、友達からの意見を生かした。

振り返り

ｅ．自分の書いた文章を読んだ時、根拠(事実)が全然なくて自分の考えだけになっていたことに気がつきました。もっと説得力を持たせるために根拠となる情報を次から入れようと思う。

ｆ．自分の中ではばっちり書けたと思っていたけれど、班の人に指摘されて、文章の入りでこの絵がどんな絵なのか説明されていなくて伝わりづらいことに気付けた。

４．単元を終えて

成果と課題

歴史を根拠として用いるなど、他教科の知識と関連させた単元構想を提案できたことが成果の１つである。授業改善プランにおける課題から、クロムブックの学習内容を授業参観者がリアルタイムで閲覧できるよう、廊下にモニターを設置し、研究の視点として役立てた。

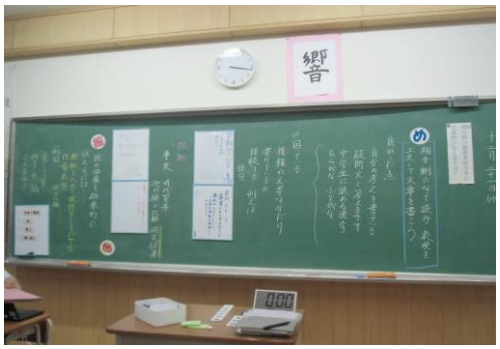
毎授業の振り返りでは、表面的な理解から本単元の問いに迫る内容へと考えが変化していく様子が見られ、生徒自身が学習内容を客観的に捉えて整理することができていた。R4 年度高知県学力定着状況調査を分析した結果、中学２年生の記述式問題に対する正答率は 59.9%であった。(全国正答率比＋3.9%)　これらの結果から、一定の分量を記述する力は身についていると考えられる。

しかし、授業評価アンケートでは「授業中にお互い意見を交流する中で、自分の考えが変化したりより確かなものになったりしていますか」の項目において数値が減少した。(1 学期 92.7%、2 学期 87.8%)

この結果から、意見交流の場面設定が少ないと感じていることや、付けたい力に沿った交流内容となっていないことが考えられる。特に本時においては、絵の持つ価値を伝える文章にするために根拠への焦点化が図られていないことに対して課題があると考えられる。

今後の取組

国語科では、２学期より「単元ゴール」を「問い」として、設定しチャレンジしてきた。生徒の単元の１時間目の感想や振り返りから，何に気付き、何を疑問と思っているのかを基に、あらかじめ教科会で準備していたものとを重ねて、２時間目に「問い」の確認を行い、それについて最終的に振り返りの 200 字が書けるよう学習を進めてきた。その流れの中で、「どうすればよいか？」「なぜ、こうなるのか？」を考え、主体的に考えたり気付けたりする場面から、言葉による見方・考え方を働かせようと取り組んできた。

また、その繰り返しが深い学びへとなるよう、仲間との対話や議論の場を大切にしてきた。そのため、今後も生徒が問いや課題に対して、まずは自分で考え、他者と共有し、再考していくという過程を大切にしていきたいと考える。

国語という教科は、「できた、分かった」が分かりにくい教科である。他者と共有する際に、自分の考えと比べ、変容や深まりはどうだったかという振り返りを書くようにしてきた。それによって、生徒が自分の成長に気づける機会となるよう、今後も振り返りの場を大切にしていきたい。また、付けたい力や単元ゴールが明確に提示できるよう教科会で検討していきたい。